



名張藤堂家邸跡 (全景)

名張小学校の向かいには、白壁に囲まれた大きな屋敷があります。江戸時代に名張を治めていた名張藤堂家の御殿跡です。今に残る貴重な上級の武家屋敷として、三重県の指定文化財になっています。また、この辺りは当時、名張藤堂家の家紋から「桔梗ヶ丘」と呼ばれていました。

1. 名張城

名張藤堂家邸や名張小学校のある丸之内の高台は、もと名張城のあったところです。名張城は、豊臣秀吉の時代、1585（天正13）年に筒井定次の家臣、松倉氏により築かれます。1608（慶長13）年に藤堂高虎の領地となり、大坂の陣では城を守る兵が置かれました。

松倉氏により築かれた名張城は、大きさなどの詳しいことは分かっていませんが、後の藤堂高吉によって築かれた名張藤堂家の御殿が、名張城の規模であると考えられます。また、名張川から引き入れた築瀬水路は道に沿って張りめぐらされ、城の高台のふもとでは、城下川とも呼ばれています。

2. 藤堂高吉

1616（元和2）年に名張城が廃城した後、1636（寛永13）年伊予（現在の愛媛県）の今治城主であった藤堂高吉が移り住み、2万石を治めました。そして、城跡に御殿を構えてから、明治維新の11代高節まで続きました。名張藤堂家は、独立した大名とは認められていませんでしたが、独自の家臣団を持ち、2代目からは伊勢の国、松坂（現在の松阪市・明和町の一部）で1万石、名張で5千石になり、御殿は役所の機能も持っていました。伊賀は10万石のうち、残りの9万5千石は津藤堂藩が治めていました。

藤堂高吉は、織田信長の重臣丹羽長秀の三男です。豊臣秀吉の天下取りの都合で、秀吉の弟羽柴秀長の養子となりました。しかし、後の秀吉の命令により秀長の家臣であった藤堂高虎の養子になりました。高吉は朝鮮の役や関ヶ原の戦いでは高虎と共に戦いましたが、1601（慶長6）年に高虎に高次が誕生すると大切にはされず、やがて高次の家来になってしまいま

名張藤堂家 【→P43,46,79,82】
織田信長 【→P7,56】

す。しかし、高吉は伊予から来た町人たちを住ませるため、名張川の土手を石積みに改修し、残った土地を宅地として新しい町を造りました。そして、城下町や宿場町として町を発展させました。92歳で亡くなると、高吉をまつる寿栄神社が造られました。

3. 屋敷の様子

名張藤堂家の御殿は1710（宝永7）年の大火事によって焼失し、その後に順次再建されましたが、江戸時代終わりごろの屋敷図では、1083畳を数えるほどの広大な御殿でした。明治維新後、廃藩置県により役所的な建物は取りこわされ、生活をしてきた建物だけが残されました。大名家は東京に移り住むことが命ぜられ、地方の屋敷は取りこわされましたが、名張藤堂家は大名家ではなかったため、屋敷とともに名張に残りました。上級武家屋敷は縁側にも畳が敷かれています。床に段差をつけ、当主の居間は上段の間になり、天井も他の部屋に比べて高く造られているという特ちょうがあります。



上段の間

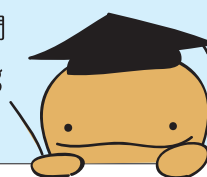
この屋敷と共に、「豊臣秀吉朱印状」「羽柴秀吉・丹羽長秀の書簡（手紙）」など、貴重な文化財が保存・展示されています。



名張絵図 1806（文化3）年

「名張まちなか見所案内（名張市）」より

1石は大人1人が1年間に食べる米の量（約150kg分）にあたります。



実際に行ってみよう。



宿場町 【→P46】